

新型コロナウイルス・季節性インフルエンザ同時流行 対応に関し寄せられた都道府県からの主な意見

地域の実情に応じた柔軟な対応の許容

- 本県では地域の医療機関の協力を得ることで、まずは診察を経てから健康フォローアップセンターで適切なプライマリケアを提供している。今回のスキームでは「自己検査」が原則とされているが、地域の実情に応じた柔軟な対応を許容していただきたい。
- 有症状者に対しては、必要に応じた医療を速やかに提供することが第一。地域の感染状況等にかかわらずに健康フォローアップセンターのみによる対応を前提とすべきではない。

検査キットの確保・供給及び各家庭での備蓄促進

- 自己検査のための検査キットを各家庭が準備することが前提となっている。各家庭で常備すべきなのであれば、その旨を明らかにした上で、国において検査キットの供給体制を十分に確保しつつ、備蓄に向けた積極的な広報を行うべき。
- 本方針では、「新型コロナとインフルの同時検査キットの確保」を行うとされているが、既に医療機関からは入手困難との声も聞かれる。国において十分な確保・供給を図っていただきたい。
- 医療ひっ迫等を防ぐため、インフルエンザ検査キットによる自己検査も可能となるよう、当該キットのOTC化等を検討するべき。

発熱外来の充実・確保

- 「都道府県ごとの発熱外来の人口10万人あたりの数等を公表」「発熱外来について、箇所数の増加等」を進めるとあるが、医療従事者の不足等の事情により、都道府県と地区医師会を主体とした取組ではこれ以上の発熱外来の確保は限界。国によるさらなる財政支援や国レベルでの協力への呼びかけを求める。また、発熱患者が多数発生して診療に忙殺されている現状では、オンライン診療の大幅強化についても実現に大きな懸念。
- 新型コロナウイルスでは、小学生は検査キットによる自己検査が認められていた一方、本スキームでは速やかにかかりつけ医を受診することとされているため、小児外来のひっ迫が懸念される。国において、体制強化のための支援や呼びかけ等を行っていただきたい。

その他

- 健康フォローアップセンターにインフルエンザ陽性患者からの相談が行われること等がないよう、重症化リスク等に応じた国民への受療行動の呼びかけに当たっては、わかりやすく明確な広報を行っていただきたい。